



e-news SEaweeds No. 16

日本海藻協会ニュース

2009年7月15日

・協会事務局から

1. 秋季藻類シンポジウム

2009年秋季藻類シンポジウムは10月9日(金)に学士会館(東京・神田)で開催の予定です。

2. 「海藻資源」の原稿募集

会誌「海藻資源」No.21(12月発行予定)の原稿を募集します。投稿期限は10月10日です。総説、報告、資料、書評などの原稿を、体裁等は最新号を参考にしてワード形式で作成し(左右2段組にしなくて結構です) e-mailの添付ファイルとしてお送りください。

・海藻関連ニュース

1. 第7回アジア太平洋藻類バイオテクノロジー会議

アジア太平洋応用藻類学会(Asia-Pacific Society for Applied Phycology, APSAP)主催の第7回アジア太平洋藻類バイオテクノロジー会議(The 7th Asia-Pacific Conference on Algal Biotechnology, 7th APCAB)が2009年12月1-4日にインドのニューデリーで開催されます。藻類バイオテクノロジー関連の研究者のみならず技術者、事業主、商社、流通関係者なども多数参加するこの国際会議は、これまでマレーシア、シンガポール、香港、タイ、中国、フィリピンなどで3年ごとに開催されてきました。今回はインド藻類学会の世話で、Algal Biotechnology in the Asia-Pacific Region: New Challenges and Opportunities for the 21st Centuryの標題のもとで開催されます。

発表要旨の受付締切りは2009年10月15日です。参加費は9月30日以前と10月1日以後(カッコ内)で異なり、次の通りです。

APSAP 非会員 US\$ 300 (350); APSAP 会員 US\$ 250 (300);

学 生 US\$ 150 (200): 同 伴 者 US\$ 150 (200);

企業関係者 US\$ 700 (1,000)

詳細はウェブサイトwww.algalbusiness.comでセカンド・サーキュラーをご覧ください。あるいはarugay@mx4.ttcn.ne.jpにご連絡下さればセカンド・サーキュラーと参加登録様式をお送りします。

2. 「国際水産養殖技術展 2009」東京

(社)大日本水産会主催の「国際水産養殖技術展 2009」東京 (International Aquaculture Technology Expo 2009, Tokyo) が7月22 - 24日に東京国際展示場「東京ビッグサイト」東2・3ホール(東京・有明)で開催されます。この展示会は「ジャパン・インターナショナル・シーフードショウ」(Japan International Seafood & Technology Expo)の中で特設開催されるものです。

3. 第9回国際藻類学会議

第9回国際藻類学会議 (The 9th International Phycological Congress, IPC9) が8月2 - 8日にオリンピック記念青少年総合センター(東京代々木)で開催されます。詳細は<http://www.ec-japan.jp/ipc9/index.html> をご覧下さい。

4. 海の森づくり第3回こんぶサミット(日本海藻協会後援)

NPO海の森づくり推進協会主催の海の森づくり第3回こんぶサミット「豊かな海との共生をめざして:海の森づくり こんぶサミットin 壱岐・(青島)・函館・東京・青森・宇和島」(2009年4月~2010年3月)の詳細は、海の森づくり同協会横浜事務局(Fax: 045-922-3448, e-mail: shujiro.fujino@mbe.nifty.com)に問い合わせるか、ホームページ<http://www.kaichurinn.com> をご覧ください。

東京での開催は次の通りです。

9月26日(土) 東京海洋大学品川キャンパス

シンポジウム 「海との共生をめざした環境と食育と里村づくり」
(講演とパネル討論)

9月27日(日) 東京海洋大学品川キャンパス

シンポジウム 「海との共生をめざした東京湾の環境修復と海の森づくり」
(講演とパネル討論)

5. 第20回国際海藻シンポジウム(XX ISS)

国際海藻協会(International Seaweed Association, ISA)主催の第20回国際海藻シンポジウム(The XX International Seaweed Symposium, XX-

ISS) が 2010 年 2 月 21 - 26 日にメキシコのエンセナダ (Ensenada, Baja California) で開催されます。会場は大学(UABC)近接の海に面した Hotel Coral & Marina (ダウンタウンまでタクシーで約 10 分)です。登録期限と参加費は、早期登録(正参加者 US\$435、学生 US\$275、同伴者 US\$250)が 2009 年 10 月 30 日まで、それ以後 2010 年 1 月 22 日までは正参加者 US\$530、学生 US\$375、同伴者 US\$300、1 月 22 日以後は正参加者 US\$600、学生 US\$450、同伴者 US\$350 です。参加費は登録期限までに送金してください(銀行送金のみ可)。参加費には、歓迎レセプション、Mid-Symposium Tour、バンケット、コーヒブレイクなどの経費が含まれています。Proceedings は別途 US\$75 が必要となります。Mid-Symposium Tours として (1) Gray Whale Watching, (2) The Blowhole, (3) The Wine Route, (4) Seaweed Collection and Abalone Farm Visit などが予定されています。ホテルは、ISS 参加者のための特別料金(1泊 US\$55~173)が設定されていますが、参加者各自がホテルに直接申込む必要があります。

研究発表のアブストラクト送付の期限は 2009 年 9 月 30 日です。

詳細は <http://www.xxseaweedsymposium.org> で Second Circular をご覧ください。

・カレンダー

- 2009.7.22-24. 「国際水産養殖技術展 2009」東京(東京国際展示場“東京ビッグサイト”東 2・3 ホール)
- 2009.8.2-8. 第 9 回国際藻類学会議(東京 オリンピック記念青少年総合センター) [Nos.9 & 10]
- 2009.9.26-27. 海の森づくりシンポジウム(東京 東京海洋大学 品川キャンパス)
- 2009.10.9. 2009 年秋季藻類シンポジウム(東京 学士会館)
- 2009.12.1-4. 第 7 回アジア太平洋藻類バイオテクノロジー会議(インド、ニューデリー)
- 2010.2.21-26. 第 20 回国際海藻シンポジウム(メキシコ、エンセナダ)

・会員会社の新製品等の紹介

1. 新刊図書案内

安田徹(著)エチゼンクラゲとミズクラゲ(ベルソープックス 030). 成山堂書店. 四六判・180 頁・定価 1,680 円(税込).

石田祐三郎（著）海洋微生物と共生 - サンゴ礁・海底熱水孔の生き物たち
- (ベルソープックス 031). 成山堂書店. 四六判・158 頁・定価 1,680 円 (税込).

海藻 Q & A

(今回は休みます。)

これまでのQ & A

- Q1 - 「海藻」と「海草」は同じですか。(No.2 に掲載)
- Q2 - ノリの「色落ち」って何ですか。(No.2 に掲載)
- Q3 - 海藻が多様な色彩を呈するのはなぜか？(No.3 に掲載)
- Q4 - コンブやワカメは湯通しするとなぜ緑色になるのか？ 焼き海苔はなぜ緑色か (No.3 に掲載)
- Q5 - 海苔が湿気ると赤紫色になるのはなぜか？(No.3 に掲載)
- Q6 - テングサという種名の海藻はないのですか？(No.4 に掲載)
- Q7 - 「うみぶどう」は海藻の名前ですか？(No.5 に掲載)
- Q8 - 「キラー海藻」って何？(No.6 に掲載)
- Q9 - 日本の海苔は輸出されていますか？(No.6 に掲載)
- Q10 - 「髪菜(はっさい)」は海藻ですか？(No.7 に掲載)
- Q11 - 中国で栽培(養殖)されているノリは日本のノリと同じですか？(No.8 に掲載)
- Q12 - 「岩のり」と「青のり」は違うものですか？(No.9 に掲載)
- Q13 - 「心太」と書いて「トコロテン」と読むのはなぜですか？(No.10 に掲載)
- Q14 - 「鰯浦こんぶ」はコンブですか？(No.11 に掲載)
- Q15 - 日本産海苔の輸出状況はどのようになっていますか？(No.12 に掲載)
- Q16 - 「磯焼け」って何？(No.13 に掲載)
- Q17 - 「寒天」と「ところてん(心太)」はどう違うのですか？(No.14 に掲載)
- Q18 - 「はんぱ」って何？(No.15 に掲載)

この協会ニュースは、主として会員の皆様からの情報・資料に基づいて、月1回(毎月15日付で)発行されます。情報・資料を下記宛にご提供下さい。

〒101-0031 東京都千代田区東神田 2-1-11 第一坂本ビル 7F

マリン・サイエンス株式会社 内

日本海藻協会事務局

編集者：有賀祐勝 (arugay@mx4.ttcn.ne.jp)